

H23年度 日南市立東郷中学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標 新たな時代を切り拓いていく気概をもち、心身ともに調和のとれた生徒の育成を図る。

H24.2.16

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント
			指標別	総合		
学力向上の充実	1 基礎・基本の確かな定着	<p>昨年度の反省から全教科に表現活動を取り入れた。その結果、日南市総合学力調査の意識調査において、「意思表示」の項目に肯定的な回答が多くなった。また、ドリル的な反復学習や小テスト等の取り組みによって基礎・基本の定着に成果が現れている。習熟度別の少人数指導について、生徒は固定的に捉えている。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学、英語科を中心に習熟度に応じたきめ細かな指導を行う。 ・じっくり考え、自分の言葉でまとめる活動を重視した授業を全教科で実践する。 	3			<p>・指標一の結果から、基礎基本の定着が進み、少しずつ学力の向上が図られていることに安心している。少人数指導を中心とした授業の工夫がなされ、生徒がそのことを肯定的にとらえていることが、さらなる学力の向上につながることを期待する。指標2、3の結果については、学校からの情報提供や高校との連携を深めてもらいながら家庭や地域の教育力向上を図って行かなければならないだろう。家庭での保護者の読書離れも見られるようで、保護者が本を読む習慣を身につけてもらいたい。</p> <p>【総評】</p> <p>・基礎学力の定着は、授業の工夫改善により生徒一人一人に応じた指導がなされている。しかし、学校での学習だけが改善され、家庭学習の習慣化がなされていない。保護者がもっと勉強する環境をつくり家庭学習を習慣化させる必要がある。</p>
	2 自ら学ぶ意欲・態度の確立	<p>自ら学ぶ力としての「自宅学習の習慣化」及び「学習定着のための方略」に落ち込みが見られる。指標1の結果を考えると自ら学ぶ意欲や態度の育成については、学校と家庭が一体になった取り組みが必要である。対策として、各教科とも、昼休みや放課後を使って個別指導を行っているが、自ら学ぶ生徒の育成には至らない。特に、テスト後の見直しや授業後の復習に対する取り組みが悪く、スキルも育っていない。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科(5教科)ごとに再テストややりなおしの具体的な方策を講じ、実践する。 ・家庭との連携の充実を図り、家庭学習時間の目標を具体的に設定し、生徒の家庭学習の習慣化を図ることで宿題や宅習の提出率を高める。 ・月1回、中学生新聞読み取り、要約の課題を行い読解力の向上を図る。 ・全教科で授業及び単元のまとめを生徒自身の言葉でまとめさせ、各教科で求められる読解力の向上に努める。 	3	3	3	
	3 進路に対する目的意識の高揚	<p>自己理解や職業観の育成が不十分で将来の目的意識が薄い生徒が多い。中学校1年生から3年生へ系統的、継続的進路指導が不十分である。勤労の体験が乏しく、小中学校で連携した進路指導が望まれる。また、保護者への啓発も重要である。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で連携して9年間を見通した進路指導を行う。 ・進路情報の発信を定期的に行い、保護者の進路に対する意識も高める。 	2			
生徒指導の充実	1 基本的な生活習慣の確立	<p>保護者・地域住民アンケートによると「あいさつがよい」という意見が大半を占めている。あいさつ、返事については、日本一の学校を掲げ、生徒会のテーマにしている。しかし、学校でだけの実践になっており、家庭、地域を巻き込んだ指導が望まれる。また、人間関係におけるトラブル回避や対処能力が育ちにくい状況があり、ソーシャルスキルトレーニングが必要となる。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動としての「あいさつ運動」の充実を図り、気運の高揚と東郷中生としての自覚を促す。 ・生徒の実態にあった日南コミュニケーションスキルプログラムの実践に取り組み、トラブル回避能力等を育てる。 	3			<p>・あいさつ、返事は、東郷中学校の伝統として地域の誇りになっている。特に、部活動生の態度が良く、小学生の模範になっている。今後、小中一貫校になることを考えると小学校にも良い影響を与えて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は、どれも質の高いものができている。特に合唱は、地域の宝としてフェスティン東郷にはなくてはならないものになっている。 ・いいじめや不登校については、完全に0ではないよう、起こらないための予防や起こった時の対応策をしっかりと行って欲しい。東郷地域では、地域協議会で住みよい地域づくりを行っているが、こういった所もしっかりと手を打っていきたい。 <p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの些細な変化を見逃さないように、先生方が子どもたちに寄り添い、心の支えになっていただきたい。 ・子どもたちが社会に通用する知恵や知識、体力、精神力を身につけていただきたい。
	2 生徒活動の充実と定着	<p>学級専門委員会、全校専門委員会の話し合いに深まりがない。授業外での指導が主になるので時間設定が難しい。生徒の自主的運営が可能になるまで徹底した指導が必要である。小学校で児童会と連携し、小中一貫した指導が可能になった。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の生徒会指導の研修が必要である。 ・生徒会活動の計画的指導を通して、自立した組織運営のあり方を学ばせる。 ・リーダー育成のための学級経営や部活動指導が必要である。 	3	3	3	

	3	こころの教育の充実	<p>2ヶ月に1回「いじめに関するアンケート」を行っている。そのアンケートから生徒の実態把握を行い、学級活動や道徳での人権に関する授業が展開されている。また、そのアンケートから学級の雰囲気もうかがい知ることができ、いじめ・不登校に対して早期対応ができています。青少年育成協議会の標語募集でも人権に関するものが作成され、地域ぐるみで顕彰されている。保護者アンケートからは、教師の指導時の言動や態度が指摘されているので気をつけていきたい。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動を中心に全教育活動を通して心の教育にあたる。また、学校行事で具体的な体験を積ませる。 ・教職員同士で授業を参観し、人権教育、生徒指導を意識した授業改善を行う。 	2		
健康教育の充実	1	健康な生活の実践	<p>登校率は高く、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行もあったが、学校閉鎖等の影響まではなかった。欠席の多い生徒が数名いるので、欠席を少なくするような支援を継続して行う必要がある。保健室への来室も少なく、概ね健康である。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日に各学級の状況や保健室、特別支援生徒の状況について情報交換をし共通理解を図っている。 ・心の健康増進のため全教育活動を通して、積極的な生徒指導を行う。 	4	3	3
	2	危険予知、回避能力の習得	<p>保護者・地域住民から「あいさつがよい」、「交通マナーがよい」という意見をいただいている。また、地域協議会や自治会長会、青少年育成協議会等の見守り運動を通して安全が確保されている。しかし、時と場に応じた行動を取る場面が必要となったとき、より高次元の主体的能力が必要となる。虫歯治療率47.8%は、少しずつ指導の効果が現れていることを示している。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に予防対策を意識した行動を指導の根本においている。 ・地域住民からの情報を得るため、民生委員や自治会長との連携を密にしている。 	3		
	3	食に対する関心の向上	<p>給食指導時の生徒の状況を見ても好き嫌いが多く、きれいなものを戻して食べなかったり、近くの子にあげたりとマナーや衛生面でも問題がある。家庭での食生活にも偏りがあり情緒の安定や忍耐力に影響している部分が見受けられる。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育だよりや給食週間を設定し啓発を図っている。 ・参観日での食に関する講演で生徒、保護者へ食の大切さについて意識化を図る。 	3		
	4	体力の向上	<p>年度当初の体力テストでは、握力や瞬発力、柔軟性(50m走、立ち幅跳び、長座体前屈)に難がある。学年が上がるにつれて、全国平均に近づいたり、越えたりしている。これは、体育の準備運動の取組や部活動加入率81%の効果といえる。肥満体系の生徒が数名おり、生活習慣の改善が求められる。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の体力の現状を意識させ、体力向上への気運を高める。 ・小学校と連携して取り組む。 ・生涯を通じて健康に対する自己管理能力の育成を目指す。 	3		
			<p>子どもたちの登下校の安全については、地域協議会や青少年育成協議会、各自治会で見守り活動やあいさつ運動を行っている。地域にしっかり定着し、これといった問題は起こっていないようである。</p> <p>・現在の子どもの体力が低下していることは、様々な場面で気づくことができる。家庭の生活習慣をしっかりと、子どもたちに家庭での役割をもたせる必要があると思う。</p> <p>【総評】</p> <p>・家庭での健康な食生活が、健康の基本となる。保護者が家庭での生活習慣をしっかりと整え、子育てをしてもらいたい。特に、朝、晩の食事を家族みんなで取ることが望ましい。虫歯等を中心にした治療は、学生時代にできることで、しっかりと治療習慣を身につけてもらいたい。</p>			

【総評】

○ 次年度への改善に向けて

- ◎中学生のさわやかなあいさつに対して、地域の大人がしっかりと返していかなければならない。
- ◎小中一貫校の開校に向けて、しっかりと準備をしていただきたい。
- ◎地震津波が心配されるので避難訓練をしっかりと行い、防災体制をつくっておいでいただきたい。地域の防災体制もしっかりと整えておきたい。